

## 三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査の結果について（速報）

### 1 目的

前回の調査から5年が経過し、その間に新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル化の進展など、子どもと保護者を取り巻く社会環境は大きく変化しました。ヤングケアラーなど今日的課題への対応も求められています。そこで、再度の調査により市内の子育て家庭の現況及びニーズを把握し、今後の取組みの方向性を判断するための基礎資料として活用するものです。

### 2 実施状況

市立小学校5年生から中学校3年生及びその保護者を対象にアンケート調査を行いました（調査期間：令和4年7月15日～8月4日、無記名、学校配布・郵送回収）。

前回と比較して、児童・生徒では約8%、保護者では約13%回収率が上昇しました。

	配布数（人） （子ども・保護者）	回収数 （人）	回収率		
			今回（R4）	前回（H29）	（対H29比）
小学5・6年生	2,118	1,199	<b>56.6%</b>	48.8%	+7.8%
中学生	2,769	1,372	<b>49.5%</b>	41.7%	+7.8%
保護者	4,887	2,569	<b>52.6%</b>	39.0%	+13.6%

### 3 相対的貧困率について

相対的貧困率は9.9%で前回比▲3.7%でした。

貧困線は209.3万円、等価世帯収入の中央値は418.6万円でした。

	今回（R4）結果	市前回（H29）	国（R2）※
貧困線	<b>209.3万円</b>	150.9万円	158.8万円
相対的貧困率	<b>9.9%</b>	13.6%	12.9%

※「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」（調査実施：令和2年度）

【世帯収入の回答】 回答2,238人/回収2,569人（回答率87.1%）  
うち、相対的貧困9.9%（221人）、ひとり親9.6%（214人）※重複あり

### 3 概況（保護者の状況）

#### 【世帯の経済状況】

世帯総収入を50万円単位で調査。最多は1,000万円以上。750万円以上の各選択肢で前回より微増。収入のある人数は、1人の回答が減り2人が増加。

【世帯の総収入】 1,000万円以上 17.1%（H29:8.5%、R2国15.3%）  
【収入のある人数】 2人 69.4%（H29:61.9%）

## 【就労状況】

母親の半数はパート・アルバイト勤務（1か所）。正社員割合は前回より上昇したが国より低い。働いていない人は前回より減少、子育て優先を理由に挙げる人が半数。

【母親】正社員	19.3%	(H29:15.9%、R2国 27.4%)
パート等（1か所）	50.0%	(H29:46.0%、R2国 42.8%)
働いていない	18%	(H29:23.9%、R2国 14.6%)

## 【暮らし向き】

現在の暮らし向きは、普通と答えた人が6割。大変苦しい・苦しいとの合計は改善。経済的理由による欠乏体験を問う設問においても、経験なしと答える割合は改善。

【暮らし向き】普通	62.1%	(H29:40.8%)
大変苦しい・苦しい	23.8%	(H29:42.8%)

## 【生活の満足度】

生活の満足度を10点満点で質問、8点が最多。困窮層は5点から8点まで幅広く分散し低め。ひとり親は7点が最多。

## 【子どもとの関わり】

子どもの相手をする時間は、平日において3時間以上が減少し、1時間～2時間未満が最多。困窮層は平日、ひとり親は平日・休日も、子どもの相手をする時間が少なめ。

【子どもの相手】3時間以上	15.6%	(H29:27.3%)
1時間～2時間未満	28.7%	(H29:22.7%)

## 【子どもの進学の見通し】

子どもが大学まで進学すると思う保護者は6割いるが、7人に1人（15%）はまだわからないと回答。ひとり親は5割強が大学進学の見通しを持っていると回答。

【進学の見通し】大学まで	65.7%	(H29:74.3% (短大含む)、R2国 50.1%)
※ひとり親	55.1%	

## 4 概況（小学生・中学生の状況）

### 【生活の満足度】

生活の満足度は、小学生は10点が最多、中学生は8点が最多。

### 【勉強時間】

平日・土日ともに、小学生は30分以上1時間未満が最多、中学生は1時間以上2時間未満が最多。小学生は困窮層とひとり親で土日の勉強時間が少なめ、中学生はひとり親で平日・土日とも勉強時間が少なめ。

【勉強時間】	小学生	30分～1時間未満	平日 39%	土日 28.2%
	中学生	1時間～2時間未満	平日 30.4%	土日 27%

## 【放課後の過ごし方】

小学生・中学生とも自宅で過ごす割合が上昇。小学生は公園・広場が減少。

【放課後過ごす場所】	小学生	自宅	72.9%	(H29:55.6%)
		公園・広場	8.5%	(H29:18.8%)
	中学生	自宅	89.1%	(H29:58.4%)

## 【進学希望（中学生のみ）】

まだわからないと考える子どもが4人に1人（※前回選択肢なし）。大学までの割合は前回より減少し、高校までと答えた割合が上昇。

【進学の見通し】	大学まで	37.5%	(H29:67.6%、R2国49.7%)
	高校まで	25.4%	(H29:10.6%、R2国14.8%)

## 5 概況（コロナ、ヤングケアラー）

### 【コロナの影響】

4人に1人世帯収入が減り、残りの家庭では変化がなかった。支出が増えた家庭と変化がなかった家庭は約50%ずつ。困窮層において、生活に必要なものが買えなかった経験が高めで、家庭内のもめごとや不安・イライラが増えた割合も高め。

小学生は困窮層においてイライラや不安が増えており、中学生では困窮層とひとり親で夜遅くまで起きている回数が増加。

【イライラや不安】	増えた小学生	22.9%
【夜遅くまで起きている】	増えた中学生	24.3%

### 【ヤングケアラー】

平日、1日当たり3時間以上家族のお世話をしていると回答した小学生は、全体の1.1%（90人に1人）、中学生は0.7%（143人に1人）で国より低い。

今後、お世話の時間が長かった回答について精査・分析していきます。

## 6 今後の予定

現在、支援者ヒアリングを実施しており、今後さらに分析等をすすめて令和5年3月をめどに報告書にまとめる予定です。

\*\*\*\*\*

### <参考>

#### ○貧困率の考え方について

生計を同一にしている家族の人数の情報を基に「等価世帯収入（世帯の年間収入を同居家族の人数の平方根で除したもの）」を算出します。

次にこの収入を低い順に並べ、中央値を特定します。その半分の金額が貧困線で、この金額を下回る層が「相対的貧困層」、全体における相対的貧困層が占める割合が「相対的貧困率」となります。